

# 研究紀要

## 第38号

- |   |           |
|---|-----------|
| 清河寺前原遺跡における単独出土の台形様石器について                   | 水村 雄功     |
| トチの実と堅果類のアク抜きに関する研究史                        | 大屋道則 栗島義明 |
| 寄居町用土・平遺跡と「用土・平」式に関する覚書                     | 通野 健      |
| 反町遺跡出土土器の数量                                 | 福田 聖      |
| 北大竹遺跡における祭祀関連遺構の再検討<br>—出土遺物時期の整理—          | 渡邊 理伊知    |
| 北大竹遺跡出土の単鳳環頭大刀について                          | 古間 果那子    |
| 3D データを用いた横穴式石室の定量的分析の一手法                   | 青木 弘      |
| 関東地方における武蔵型甕の様相                             | 滝澤 誠      |
| 「白い坏形カワラケ」考                                 | 村山 卓      |
| 「乾武」の中世・金窪城と金窪南城<br>～金久保内出遺跡・清水南遺跡調査の伴奏として～ | 平田 重之     |
| 遺跡出土の鉛製玩具について<br>—久喜市栗橋宿跡関連遺跡出土資料を中心に—      | 瀧瀬 芳之     |
| 栗橋宿における銘酒の流通<br>—地廻り経済圏の残滓と崩壊—              | 魚水 環      |
| 平右衛門遺跡周辺の中世と中三谷遺跡                           | 儘田 めぐみ    |

2024

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

# 目次

序

清河寺前原遺跡における単独出土の台形様石器について……………水村 雄功 (1)

トチの実と堅果類のアク抜きに関する研究史……………大屋道則 栗島義明 (7)

寄居町用土・平遺跡と「用土・平」式に関する覚書……………通野 健 (35)

反町遺跡出土土器の数量……………福田 聖 (61)

北大竹遺跡における祭祀関連遺構の再検討

—出土遺物時期の整理—……………渡邊 理伊知 (81)

北大竹遺跡出土の単鳳環頭大刀について……………古間 果那子 (101)

3D データを用いた横穴式石室の定量的分析の一手法……………青木 弘 (115)

関東地方における武蔵型甕の様相……………滝澤 誠 (135)

「白い坏形カワラケ」考 ……………村山 卓 (153)

「乾武」の中世・金窪城と金窪南城

～金久保内出遺跡・清水南遺跡調査の伴奏として～……………平田 重之 (185)

遺跡出土の鉛製玩具について

—久喜市栗橋宿跡関連遺跡出土資料を中心に—……………瀧瀬 芳之 (207)

栗橋宿における銘酒の流通

—地廻り経済圏の残滓と崩壊—……………魚水 環 (231)

平右衛門遺跡周辺の中世と中三谷遺跡……………儘田 めぐみ (252)

# 反町遺跡出土土器の数量

福田 聖

**要旨** 埼玉県東松山市反町遺跡は、関東地方でも屈指の古墳時代前期の集落である。その成果は3冊の報告書にまとめられている。筆者は、反町遺跡出土資料について、既に数回にわたり、関東地方の古墳時代前期の土器編年の鍵となる資料として、検討を加えてきた。しかし、型式論的議論に終始する検討は、一部の資料についての個人的な評価に終始しているのではないという疑念が伴うものであった。そのため、そうした論の後ろ盾として、本稿では、報告書掲載資料と整理作業時に作成した記録をもとに、出土土器の数量(破片数と重さ)について資料化を行った。関東地方の当該期の発掘調査報告書では、出土土器の数量についての資料がほとんど行われておらず、他の遺跡との対比が必要であるため、資料の提示にとどめた。

## はじめに

埼玉県東松山市反町遺跡は、埼玉県を代表する古墳時代前期の集落遺跡である。

これまでに、埼玉県埋蔵文化財調査事業団により5次にわたる調査が実施され、報告書3冊が刊行されている(埼玉県埋蔵文化財調査事業団2009・2011・2012、以下ではI・II・IIIと呼称)。

筆者はI・IIIの担当者として、合わせてIIの整理の協力者として、全ての資料を観察、分類し、多くの個体を実測した。IIにおいて赤熊浩一と共に示した分類、時期区分はそれをもとにしたものである。

筆者は、反町遺跡出土資料については既に数回にわたり関東地方の古墳時代前期の土器編年の鍵となる資料として、検討を加えてきた。

しかし、型式論的議論に終始する検討は、型式が言語によって形成される概念であるため致し方ないのかもしれないが、それが出土資料全体に反映されているのか。分類を行うための、一部の資料についての主観的な評価に終始しているのではないという疑念が伴うものであった。

循環論的ではあるが、仮にその型式論的な時期

区分が適当なものであるならば、もととなっている各住居跡出土資料の数量にも、それが反映されている筈である。

それは型式論的分類の後ろ盾として大きな意味を持つものであろう。

では、実際には、どうすればよいのだろうか。

筆者は、担当してきた全ての整理作業において、実測可能な個体を可能な限り掲載してきた。そのため出土資料の数量的な傾向は、まずは掲載資料において確認できる筈である。

本稿では、これを作業の第一とした。

また、筆者はこれまで、接合作業終了時に、収納する前に、全ての破片を分類し、様相を記述、破片数をカウントした。

通常は、各報告書の原稿作成時に専らそれを使用するのみであった。

記載されていなかった土器全体についても、各分類に同様の所見が得られ、数量の増減が確認されると考えるならば、その数値についても公表すべきであるだろう。

これを作業の第二としたい。

また、このような発表を前提としていなかった

ため、既に記録が確認できなかったものも多い。そのため資料としての妥当性に欠ける可能性も予め承知いただきたい。

以上に基づき、本稿は、反町遺跡の古墳時代前期の住居跡出土資料について、実測個体と非掲載の破片資料の数量を示すものである。

## 1 分類

資料の分類については、再検討の余地もあるが、一貫性を保つため、IIにおいて赤熊浩一と設定した以下の分類を用いる。

### 二重口縁壺

- A 口縁部全体が長く、下位の段がしっかり作り出されているもの
- B 口縁部全体が短めで、下位の段が不明瞭なもの

### 複合口縁壺

- A 口縁端部の外側に粘土紐を貼付して複合部を作り出すもの
- B 口縁端部に粘土紐を貼付して複合部を作り出すもの
- C 所謂パレススタイルの壺の口縁部
- D 口縁部全体が短いもの 所謂広口壺

### 単口縁壺

- A 口縁部が長いもの
- B 口縁部が短いもの
- C 籠目土器

### 台付甕

- A 刷毛目調整のもの
- B ナデ調整のもの
- C S字状口縁台付甕
- D ヘラ磨き調整のもの

甕(底部があるもの 脚台部を欠く台付甕を含む)

- A 刷毛目調整のもの
- B ナデ調整のもの
- C 吉ヶ谷系
- D タタキ甕

E 受け口状口縁のもの

### 小型壺

- A 東海系の所謂瓢壺
- B 東海系の瓢壺が在地化したもの
- C 東海地方西部の丸底の単口縁壺の系譜を引くもの
- D 南関東の弥生時代からの単口縁壺の系譜を引くもの
- E 小型のもの

鉢 (A～F類は小型で平底、G・H類は大型)

- A 内湾する椀形のもの 口径に比して器高が低い。身が浅め
- B 内湾する椀型のもの 口径に比して器高が高い。身が深め
- C 短い口縁部が付く径の大きなもの
- D 短い口縁部が付く径の小さなもの
- E 受け口状口縁のもの
- F 口縁部が段のある幅広の面を持つ。北陸系
- G 大型のもの
- H 大型のもので甕に近い形態のもの 小型甕の可能性もあり

### 埴

- A 小型のもの 所謂小型丸底壺
- B 大型のもの

### 高坏

- A 東海西部系
  - 1類 忠実に模倣されているもの
  - 2・3類は在地の模倣が進んだもの
  - 2類 坏部が大きく脚部が小さいもの
  - 3類 坏部が小さめで脚部が大きいもの
- B 東海西部系の小型高坏
- C 屈折脚高坏
- D 和泉型高坏

### 器台

- A 脚部が内湾するもの 東海西部系を強く意識
- B 脚部が直線もしくは外反するもの

- C 器受部が碗形になるもの
- D 口縁部が外側に水平に延びるもの
- E 下総の影響を受けたもの 厚手
- F 北陸系 鼓形で端面に直立する面を持つ

#### 装飾器台（北陸系の装飾器台の系譜を引くもの） 甌

- A 体部が内湾するもの
- B 体部が直線的なもの

#### ミニチュア

- A 工具を使って製作するもの 碗形
- B 手捏ね 碗形

## 2 今後の課題

以上、反町遺跡の古墳時代前期の出土土器について、数量と重量の提示を行った。

掲出した数値やグラフは、型式論的な時期区分を支持するような結果を示しているように見える。また、非掲載資料についても解釈が可能とは考える。

#### 引用・参考文献

- 赤熊浩一・福田聖 2011 「3. 古墳時代の土器変遷」『反町遺跡Ⅱ』pp.652 - 673 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第380集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2009 『反町遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第361集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2011 『反町遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第380集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2012 『反町遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第393集
- かながわ考古学財団 1998 『御屋敷添遺跡第3地点 (No.1) 第4地点 (No.2) 第5地点 (No.44) 高森・一の崎遺跡 (No.37) 高森・窪谷遺跡 (No.3)』かながわ考古学財団調査報告 33
- かながわ考古学財団 2000 『天神谷戸遺跡』かながわ考古学財団調査報告 75

しかし、こうした出土土器全体の数量については、定まった解釈や方法論が確立されているわけではない。また、筆者が行った作業が、それに耐えうるものなのかの保障もない。

それは他遺跡との比較、対照によって明らかになるものと思われる。

実際、関東地方の古墳時代前期の発掘調査報告書で、これらの数値について掲出しているものは、管見に触れる限りでは、ほとんど見られない。

せめて、埼玉県内の当該期の主要な遺跡について、実測掲載個体に限られるが、同様の作業を試みてみたい。

解釈や評価は、それからでも遅くはないのではないだろうか。

そのため、本稿では性急に成果に論を進めず、ここまでの可能な限りのデータの掲載にとどめることにした。

作業量が多く、いつになるかは杳として知れないが、再考を期し、稿を閉じたい。



表2 実測個体器種一覧(2)

住居No	時期	井						高环						器台										調査区	報告書	備考							
		A		B		不明		A		B		C		D		不明		小型器台									大型						
		A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	C	D	E	F	不明	A	B	C	D	E				F	不明	A	B	C	D	E
1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2		
9	2			2	不明	2																											
10	2	1		2	不明	2	1							1																			
11	2	3		2		1																											
12	2	3		1		1																											
13	2	2																															
14	2	2																															
15	2	3																															
16	2	3																															
17	2	2																															
18	2	2																															
19	2	3			4																												
20	2	2																															
21	2	3																															
22	2	3																															
23	2	3			3																												
24	2	3																															
25	2	3																															
26	2	3																															
27	2	3																															
28	2	3																															
29	2	3																															
30	2	2																															
31	2	2																															
32	2	3																															
33	2	3																															
34	2	2																															
35	2	2																															
36	2	2						1																									
37	2	3																															
38	2	3																															
39	2	2																															
40	2	2																															
41	2	2																															
42	2	3																															
43	2	2																															
44	2	3																															
45	2	2																															
46	2	2																															
47	2	2																															
48	2	2																															
49	2	3																															
50	2	3																															
51	2	3																															
52	2	3																															
53	2	2																															
54	2	2																															
55	2	2																															
56	2	2																															
57	2	2																															
58	2	2																															
59	2	2																															
60	2	2																															
61	2	2																															
62	2	1																															
63	2	2																															
64	2	-																															
65	2	2																															
66	2	2																															
67	2	1																															
68	2	1																															
69	2	1																															
70	2	3																															
71	2	1																															
72	2	3																															
73	2	3																															
74	2	2																															
75	2	3																															
76	2	3																															
77	2	2																															
78	2	1																															
79	2	2																															
80	2	3																															
81	2	2																															
82	2	2																															





表4 実測個体器種一覧(4)

住居No	高坏		器台						瓶		ミニチュア	回数	調査区	報告書	備考	
	時期1	時期2	A	B	C	D	不明	A	B	A						B
83	2	2														
84	2	3														
85	2	2														
90	2	-														
91	2	3														
94	2	2														
102	2	3														
113	2	3														
114	2	1														
115	2	2														
122	2	3	1													
123	2	3	1		1											
124	2	2														
125	2	3	1	1												
128	2	3			1											
129	2	3	1													
130	2	3	3	2	1	1										
137	2	2	4													
138	2	2	1													
141	2	2	1	1												
142	2	3														
143	2	3	3													
146	2	3														
147	2	1	1													
148	2	1	4													
150	2	2														
153	2	2	1													
154	2	2			1											
156	2	3			1											
162	2	2	2													
165	2	2	1	1												
166	2	2														
167	2	2														
169	2	0			1											
171	2	3														
172	2	3														
173	2	3														
174	2	1														
175	2	2														
176	2	1														
177	2	3	1													
179	2	2														
180	2	2	1													
181	2	2														
182	2	3														
183	2	3														
185	2	2	1	1												
186	2	3	2													
187	2	3														
188	2	3	1													
189	2	2														
190	2	2	2	2												
191	2	3														
193	2	1														
195	2	3														
196	2	3	2	2												
197	2	2	3	1												

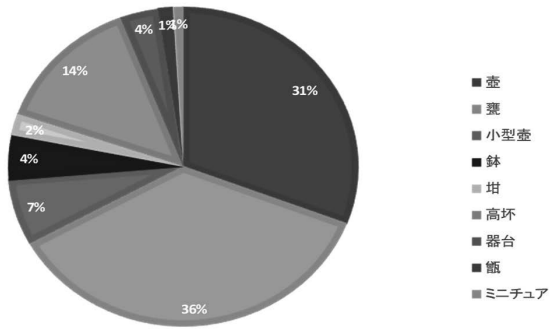




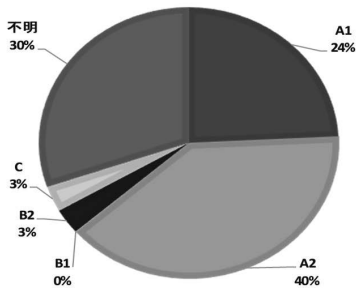




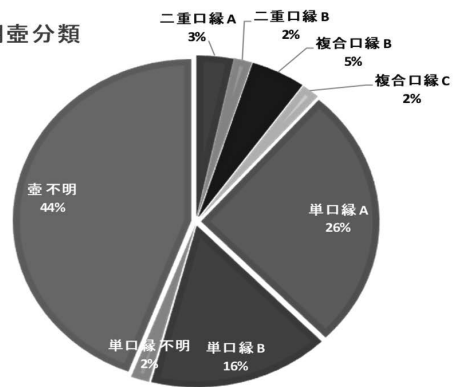
2-1期器種構成



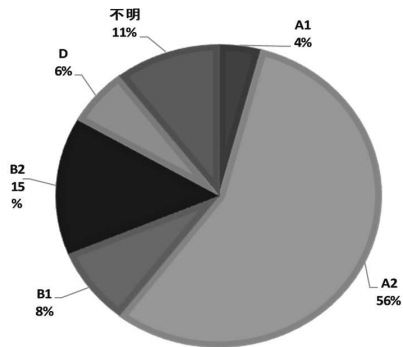
2-1期台付甕分類



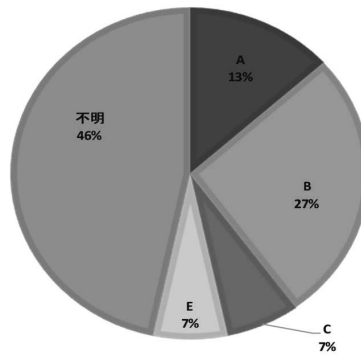
2-1期壺分類



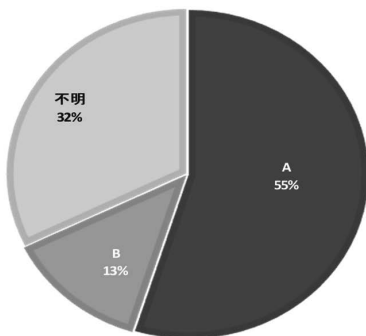
2-1期甕分類



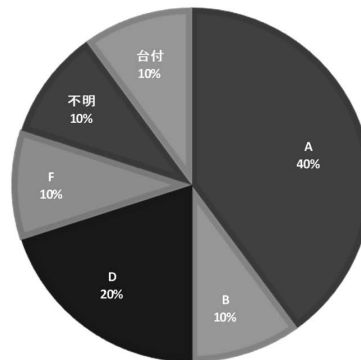
2-1期 小型壺分類



2-1期高坏分類

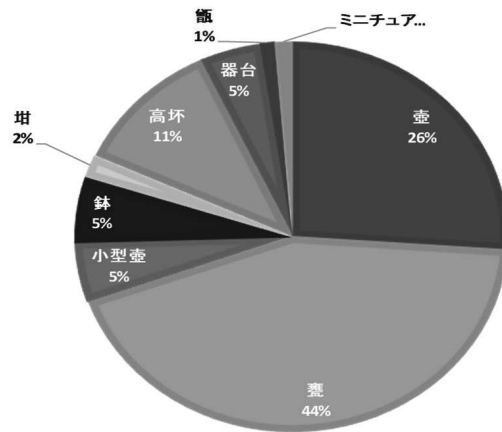


2-1期鉢分類

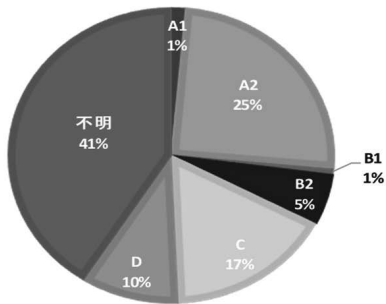


第1図 2-1期分類比率

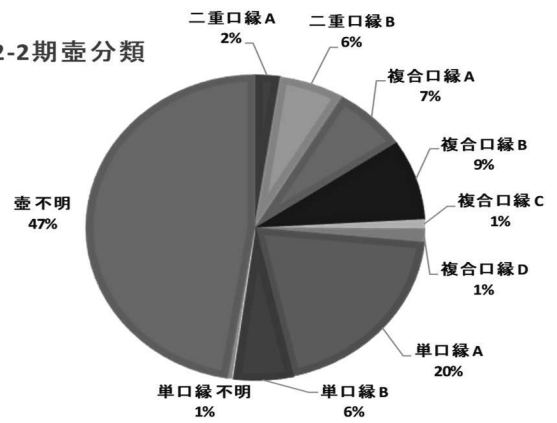
2-2期 器種構成



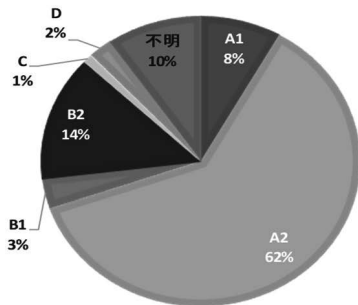
2-2期台付甕分類



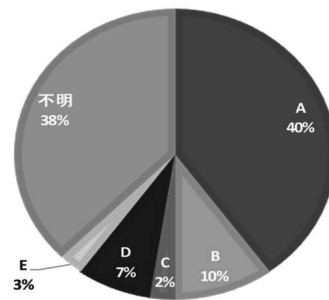
2-2期壺分類



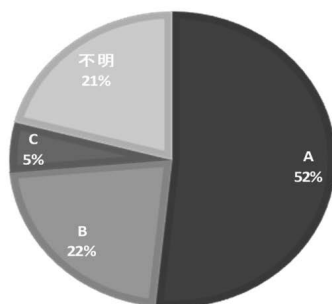
2-2期甕分類



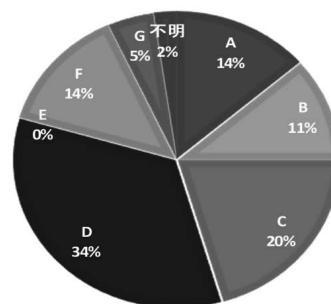
2-2期小型壺分類



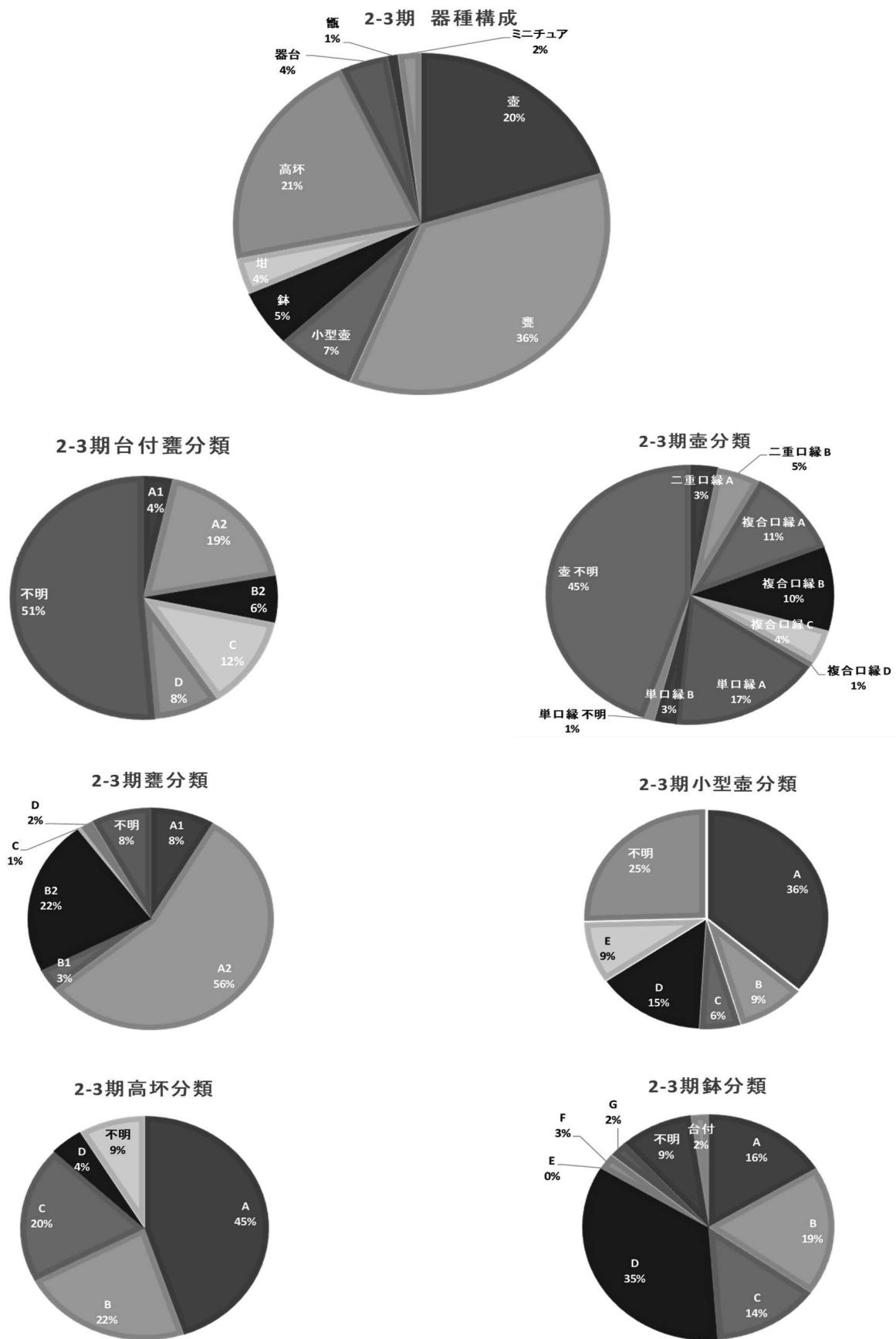
2-2期高坏分類



2-2期鉢分類



第2図 2-2期分類比率



第3図 2-3期分類比率



表9 土器破片・重量(1)

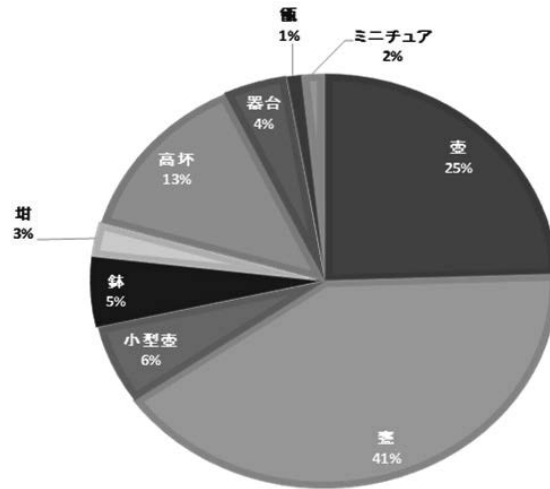
住居 No.	時期 1 2	壺						台付甕						甕						小型壺															
		全体		口縁部		胴部		底部		全体		口縁部		胴部		脚台部		全体		口縁部		胴部		底部		全体		口縁部		胴部		脚部		底部	
		数	重さ	数	重さ	数	重さ	数	重さ	数	重さ	数	重さ	数	重さ	数	重さ	数	重さ	数	重さ	数	重さ	数	重さ	数	重さ	数	重さ	数	重さ	数	重さ	数	重さ
32		3	32.2																																
33	2	3	18	245.9	2	12.5	16	233.4																											
37	2	3	29	343	1	15.9	28	327.1																											
40	2	7	70.9																																
41	2	8	185.1																																
42	2	3	9	84.68																															
114	2	1	15																																
235	2	3	0																																
242	2	2	27	2062.1	7	1607.1	20	455																											
246	2	3	39	750.9	10	93.2	22	301.6	7	356.1	11	471.4																							
248	2	2	21	407.4	7	219.6	13	162.2	1	25.6	12	2185.5	3	1899.3																					
251	2	3	2	135.4	7	564.8	40	789.2																											
253	2	3	18	684.1	2	128.2	12	325	4	230.9	11	763.8																							
254	2	3	18	829.9																															
257	2	2	25	428	5	128.2	17	240.1	3	59.7	4	87.2																							
259	2	2	11	563.1																															
260	2	2	10	1198.8	2	306	5	46.9	3	1121.3	0	0																							
262	2	2	2	65.6																															
263	2	3	6	190.5	1	106	2	40.1																											
264	2	1	14	260.7	1	34	10	115.6	3	111.1	4	80.8																							
265	2	3	1	80.3	1	80.3																													
268	2	3	48	875	6	82.5	33	398.7	9	393.8	18	449.2																							
270	2	0	0																																
272	2	1	8	422.9																															
273	2	2	40	2108.6	5	457.4	14	499.7	21	1151.5	14	1089																							
276	2	3	72	2390.2	9	172.4	55	1504.7	8	713.1	18	1249.4																							
289	2	3	16	317.2	4	61.7	10	189.7	2	65.8	4	30.8																							
293	2	3	0	0																															
295	2	2	39	1026.2	3	97.5	22	240.3	14	688.4	13	381.7																							
303	2	3	6	1484.4	1	66.5	3	536.9	2	88.1	2	1148.9	1	1148.9																					
307	2	3	0	0																															
308	2	2	113	326.4	12	168.7	74	1492.8	27	1602.5	37	988.2																							
310	2	0	0																																
311	2	3	62	949.27	5	117.62	53	587.05	4	244.6	2	616.97																							
312	2	164	2489.08	31	200	124	1342.48																												
313	2	2	72	1043.6	12	183.3	51	511.1	9	349.2	11	148.4																							



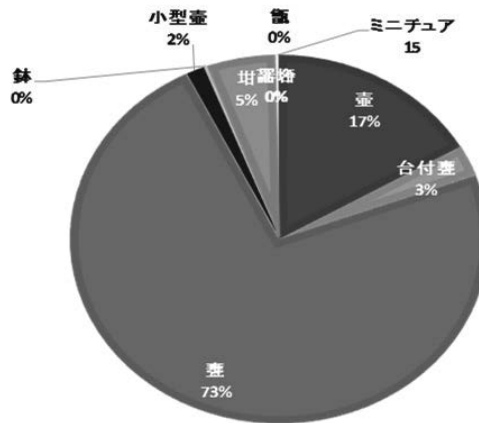




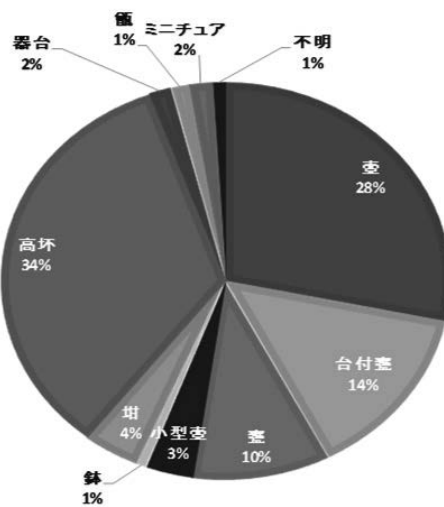
実測個体器種構成



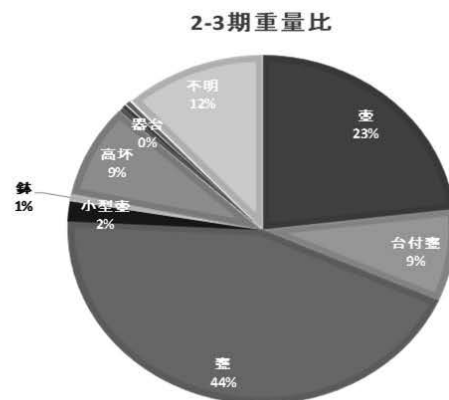
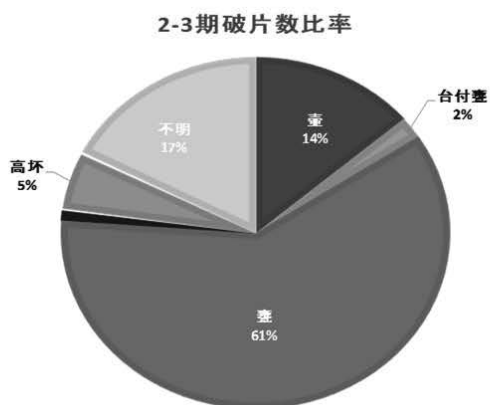
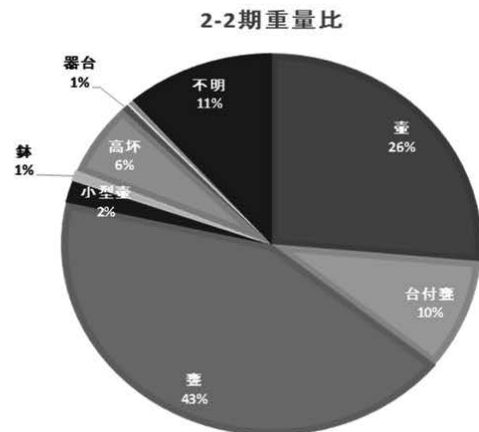
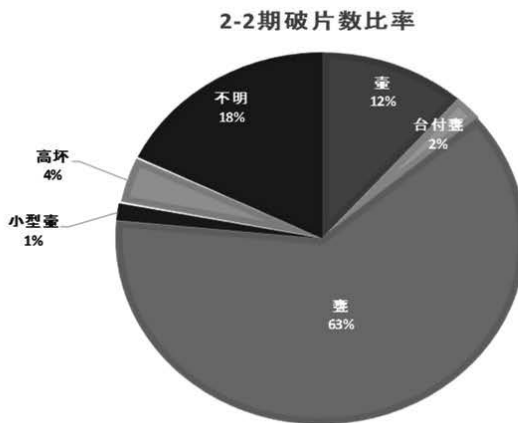
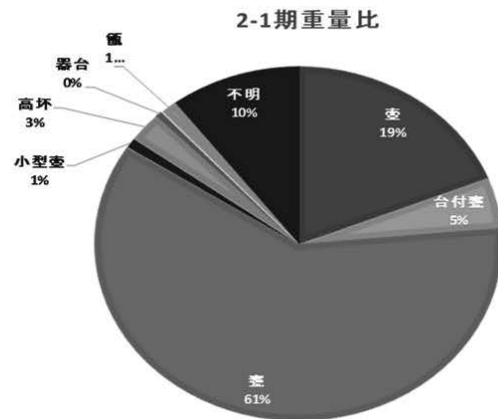
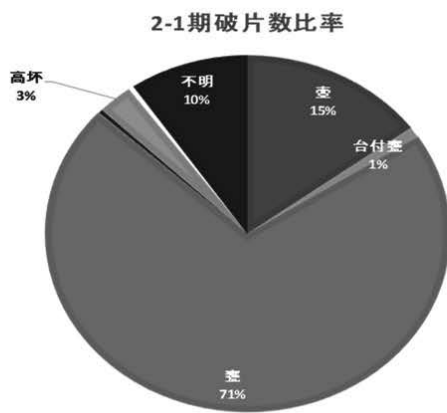
破片総数器種比率



破片総重量



第4図 破片総数・総重量



第5図 破片総数・重量

研究紀要 第38号

2024

令和6年3月13日 印刷

令和6年3月22日 発行

発行 公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

<https://www.saimaibun.or.jp>

電話 0493-39-3955

印刷 関東図書株式会社